

10月生まれのおともだち

たんぽぽぐみ

にかいどう あおいくん 1さい

ちゅうりっぷぐみ

いまい ゆめちゃん 2さい

ももぐみ

なかにし あいるくん 3さい

あそう りくとくん 3さい

ささき れなちゃん 3さい

おたんじょうび

おめでとう!!



10月 園だより

2013.10.1 矢向つばみ保育園



暑さも日に日に和らぎ、秋風の心地よさが感じられる季節になりました。早いもので、入園、進級から半年が過ぎ、一人ひとり個性を發揮してたくましい姿を見せてくれます。お友達との仲間意識も深まり、日々いろいろな遊びが展開され、また、大きい子は小さい子のお世話をしたり、小さい子は大きい子の真似をしてみたり、お互いが良い刺激となって成長している様子も見られます。

最近のお楽しみはやっぱり毎日のお散歩！秋の自然を感じながら元気いっぱい体を動かしています。たくさん遊んだ後の給食はまた格別ですね♡

スポーツの秋、食欲の秋、芸術の秋、めいっぱい楽しんで過ごしたいと思います。



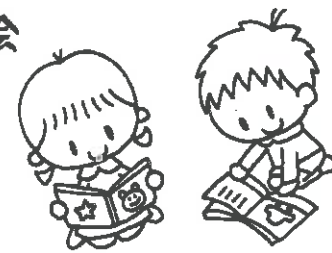
「ピョポーン！」とお迎えで入った所にある絵本コーナー、皆さん活用されていますか？今現在、利用したことのある人は全園児の41%でした。絵本コーナーの様子を見てみると、親子で楽しく選ぶ姿もあればお母さん一人で一生懸命絵本を手に取り悩む姿もあり。「借りたので読まないでしょ！」といった声も…。

では、子どもにとっての絵本の大切さとは？

- ① 親子で共感することで「情緒」が育つ。
- ② 想像力が養われる。
- ③ 聞く態度が養われる。

まだ小さいつばみ保育園の子どもたちは特に①が大事だと思います。まずは、親御さん自身が絵本の楽しさを感じることで、子どもにとって内容の理解は難しくても、絵本の色彩や親御さんの抑揚をつけて読む声も刺激になります。お気に入りの本が見つかったら繰り返して読んであげてください。

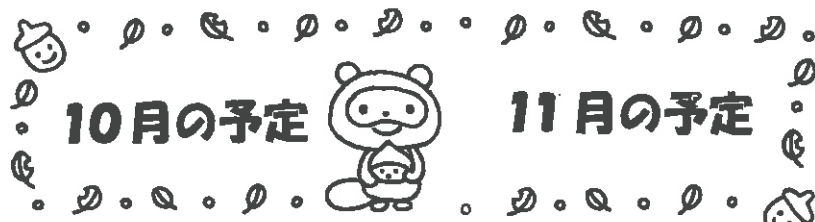
「うちの子、どんな本が好きなのかしら…」と悩んだ時はぜひ担任にご相談下さいね。それぞれのお子さんに合ったものを一緒に考えたり、アドバイスができればと思っています。秋の夜長にぜひ親子で絵本の世界を楽しんでみて下さい。



- 人気の絵本
- せんろはつづく
 - スポンさん
 - はらぺこあひむし
 - だるまさんシリーズ
- ※貸出日 → 木曜
返却日 → 水曜

いもほり

春からももぐみさんが畑作りをしてきたお芋畑。夏の間は蚊の大群に阻まれてしまいましたが、季節はいよいよ実りの秋!! 11月になったら頃合いを見てお芋ほりをする予定です。詳しいことが決まりましたらまたお知らせします。どんなお芋が収穫できるのか…お楽しみに♪



10月の予定

18日(金) 避難訓練

24日(木) 誕生日会

26日(土) 親子で遊ぼう会

※詳細は別途お知らせします。

11月の予定

8日(金) 2才遠足

20日(水) 避難訓練

26日(火) 誕生日会

?日 芋ほり



子供はゆっくりと育てよう

お母さんのおなかの中で10か月もゆっくり（ほかの動物はもっと期間が短い）育ててもらいながらも、人は生まれながらにしてまだ他の動物よりも未熟な状態で生まれてきます。それは、きっとほかの動物にはない2足歩行をしたり、手足を起用に使い、人とコミュニケーションを取ながら心豊かに生きていくために、生まれてからもまだ手をかけしっかりと保護されながら育ててもらわなければうまく成長できないよということ。よく、動物の誕生シーンでは生まれたばかりの赤ちゃんがよろよろと立ちながらもお母さんの所へ行って乳を飲む姿が映し出される。これが出来ない赤ちゃんは、自然界の中で大変命取りになる。自分の身を守れないからだ。これからすると人間の赤ちゃんが1年以上も歩けないというのがどんなに無防備でありいかに保護が必要であるかが分かる。

このゆっくりと育てられる時期に丈夫な体を作り、しっかりと生きていく基本的な能力が身につきます。そしてなによりも大事な、人とのコミュニケーションの取り方を一番身近な大好きな人から教わります。

おっぱいを飲む時子供の口はぴったりとお母さんの肌に触れています。栄養だけでなくそこから最高の安心感を得ています。

お母さんの顔をしっかりと見えています。声かけると目を見開いて手足をバタバタ、しっかりと応えます。これがコミュニケーションの第1歩です。

沢山話しかけてもらったものをため込んでため込んで、自分も何かを伝えようとしてきます。泣き声から喃語へ、片言から会話へ、聞くだけから話すことが出来るようになり、自分の思いを自由に伝えられるようになる。

その間1年ちょっとか2年。早さではなく、それがその子に必要な時間だったのです。

話せるようになってくると、子どもの気持ちもわかるようになり楽しい時期です。

話しかけて返事をしてくれるって嬉しいですね。子どもも同じ気持ちです。

用がなくてもお母さん、ママって呼んでますね。

忙しくても返事してください、いっぱいいっぱい。

一緒にいることが嬉しい楽しいのですから。

ある程度コミュニケーションが取れ、色々なことが分かったりできるようになると、意思が出てきますね。ここまでこれた、なんて大きな成長でしょう。

でも、これからがヤダヤダの始まりでもありますね。

お母さんたちの一番の心配は受け止めてあげるのはいいけど、どこまで受け止めたらいいいのか、これをしてあげることが甘やかしになってわがままにならないか。

それを見極めるのは本当に難しいですが、基本を作ればいいのです。

物質的なことはそれぞれの家庭の事情もありますが、与えればいいというものではから、お菓子はこの日に買うとか、おもちゃはひと月にいくつ買ってあげるということを（ただし何かできたからと言うご褒美でぶら下げるのではよくありませんね）。物質的なことはノーと言うことをしっかりと伝える毅然とした姿勢でよいと思います。泣いてもいつかはダメなものはダメなんだと分かってくるでしょう。

やってやれないことはないことであれば、存分にしていればいいんです。やってほしいです。だっこ、あそんで、まだやりたい。時間がかかっても、できなくてもやりたい時、ここで意欲や集中力が多く育っていますよ。靴を自分で履くというのもそう、洋服にこだわるのもそう、自分でご飯を食べたいのもそう。うまくできなくてもやりたいなんて、なんて意欲的な、これが生きる力につながるのですから。

外に行きたい、でもお母さんはお買い物に行きたい。外には出たけど、車で移動、着いたところはデパートのおもちゃ売り場や遊園地。たまにはいいけれど、子どもの言うお外は自然の中。だって、目の前には石ころも、草も、虫も、砂や段差も、犬も猫も、子どもの興味のあるものが目の前に広がっているのですから。デパートの中でのコミュニケーションってどんなものがあるでしょう。

自然の中ではどうでしょう。面白いことを一緒に楽しみたい、できないときにそばで見ているほしい、助けてほしい。お母さんやお父さんと一緒にそれをかなえてほしいんですね。大事な乳幼児期に大人の影響は大きいものです。すべてが受け身ですから。今しかできないことを子供たちが求めてきます。

一緒にいたいときに一緒にいてあげる、やってほしい時にやってもらえた子はうまく自立していきます。そこが満たされていない子は、体は大きくなっても精神的にはここでストップしてしまいます。

早く大きくする必要はありません。

この時期ゆっくりとたっぷりと関わるのがしっかりとした自立の道が開かれていきますから。

